

# 結 果 概 要

## 1. 人口総数

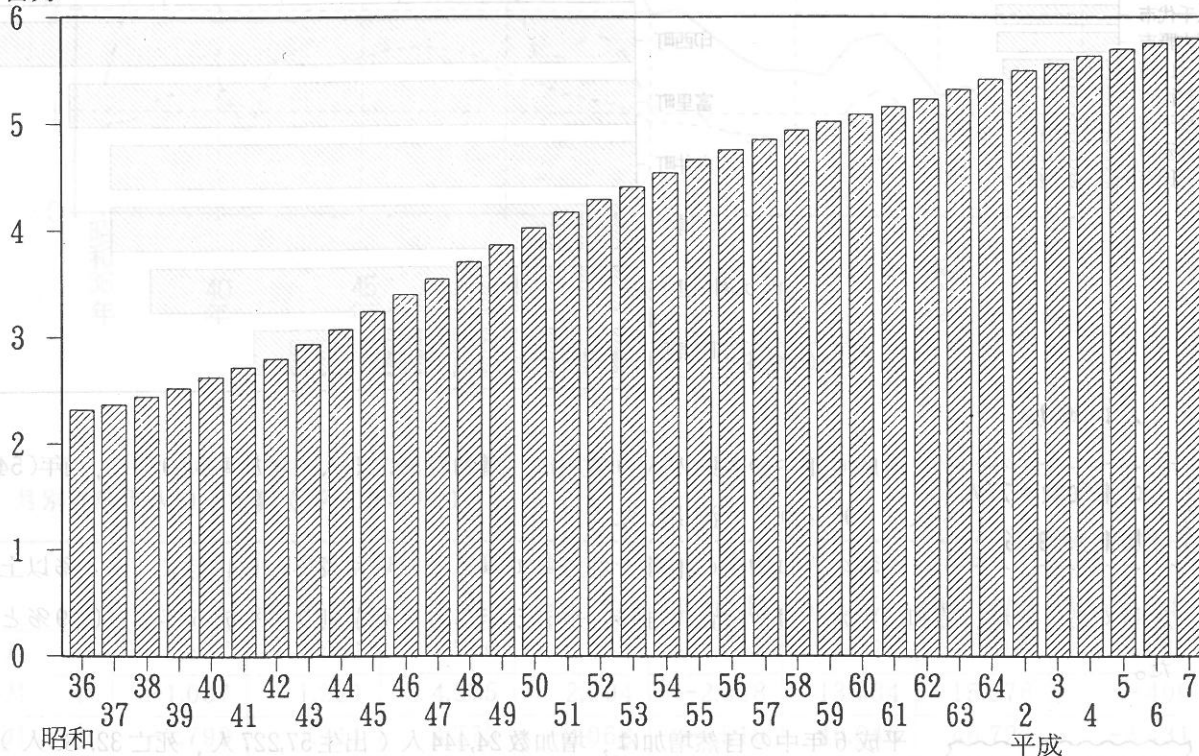
**県人口580万人**

平成7年1月1日現在の本県の人口は5,798,120人で、前年人口の5,758,405人  
比べ39,715人、率にして0.69%増加した。

本県の人口は、大正9年10月1日現在（国勢調査）1,336,155人で、その後増加を続け、昭和22年10月1日現在（国勢調査）では200万人を超えて2,112,917人となり、昭和43年7月1日現在では300万人を超え3,011,134人となった。さらに、昭和49年11月1日現在では400万人を超え4,002,808人となり、昭和58年9月12日に500万人を突破した。

図1 千葉県人口の推移（各年1月1日現在）

単位・百万



平成3年11月に公表された平成2年国勢調査第1次基本集計結果によると、本県の人口は5,555,429人で全国第7位であったが、総務庁統計局による平成4年10月1日現在推計人口では、北海道を抜き第6位となっている。

千葉市人口85万5千人  
県人口の14.7%を占める

平成7年1月1日現在の県人口を市町村別にみると、市部（30市）のうち10万人以上の市は14市あり、そのうち千葉市が85万5千人（県人口に占める割合14.7%）で最も多く、郡部人口78万9千人（同13.6%）より多くなっている。

以下、船橋市54万人（同9.3%）、松戸市46万4千人（同8.0%）、市川市44万4千人（同7.7%）、柏市31万9千人（同5.5%）の順で続き、この5市で県人口の45.2%を占めている。

郡部（45町5村）では、印西町が5万6千人（同1.0%）で最も多く、以下、富里町4万8千人（同0.8%）、白井町4万5千人（同0.8%）、沼南町4万5千人（同0.8%）の順となっている。

図2 10万人以上の市

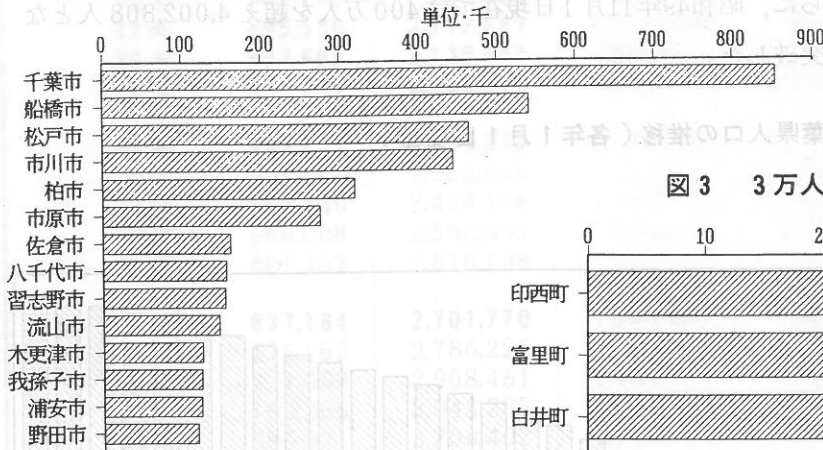
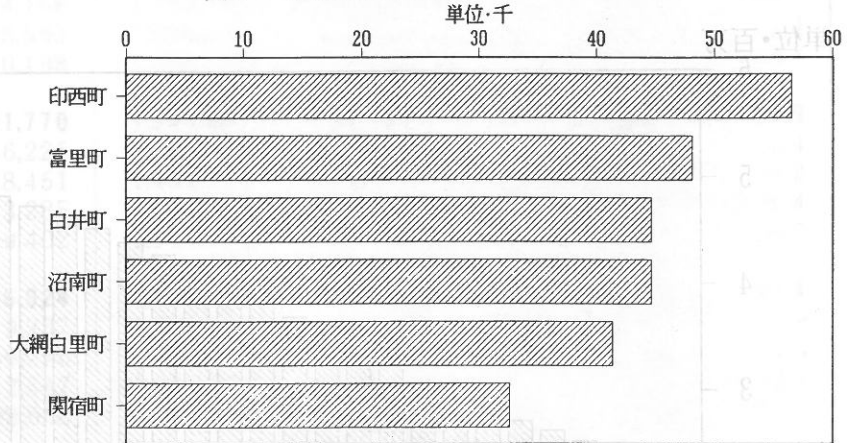


図3 3万人以上の町



## 2. 人口増加

人口増加数4万人  
増加率0.69%

平成6年中の本県の人口増加は、増加数39,715人、増加率0.69%で、前年(54,425人、0.95%)より減少した。

近年の人口増加の推移を増加率で見ると、昭和42年から49年までは4%以上の増加率であったが、昭和57年からは1%台で推移、平成5年には1%を割り、平成6年には0.69%となった。

自然増加は上昇へ

平成6年中の自然増加は、増加数24,444人（出生57,227人、死亡32,783人）で、前年の21,832人（出生53,973人、死亡32,141人）に比べ出生が3,254人増加し、死亡が642人増加して自然増加数は2,612人増加となった。

近年の自然増加を増加率で見ると、昭和42年から54年までは1%以上の増加率であったが、昭和55年に1%を割り、以降は低下を続けていたが、平成6年は0.42%で、前年より0.04ポイント上昇した。

社会増加は減少へ

平成6年中の社会増加は、増加数15,271人（転入222,662人、転出208,076人、県内移動他685人）で、前年の32,593人（転入232,992人、転出202,005人、県内移動他1,606人）に比べ、転入が10,330人減少し、転出が6,071人増加し、県内移動他が921人減少して、社会増加数は前年に比べ17,322人の減少となった。

また、社会増加を増加率で見ると、昭和37年から昭和50年までは2%以上の増加率で、そのうち昭和44年は、3.97%と4%近い高い増加率であったが、昭和51年以降は1%前後の増加率で推移していたが平成6年は0.27%と初めて0.5%を下回った。

図4 人口増加率の推移（昭和36年～平成6年）

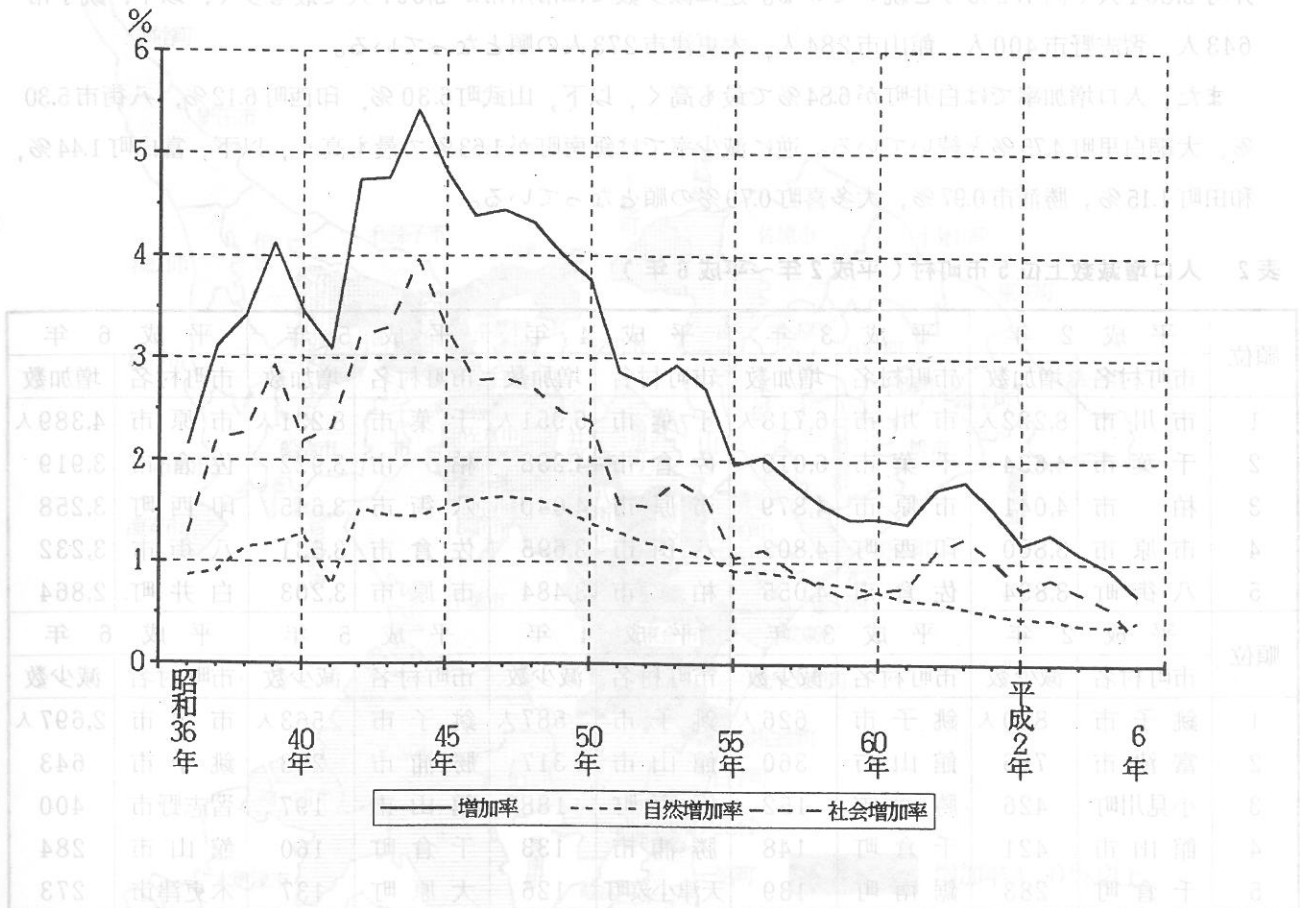


表1 月別動態別人口増加数（平成6年中）

	人口増加	自然増加			社会増加			
		増加数	出生	死亡	増加数	転入	転出	県内移動他
1月中旬	2,857	1,501	4,770	3,269	1,356	12,774	11,459	41
2月中旬	-1,067	1,281	4,275	2,994	-2,348	13,734	15,676	-406
3月中旬	-7,799	1,711	4,779	3,068	-9,510	40,646	46,725	-3,431
4月中旬	19,675	1,699	4,214	2,515	17,976	37,607	22,896	3,265
5月中旬	6,231	2,405	5,062	2,657	3,826	16,414	13,477	889
6月中旬	3,466	2,419	4,836	2,417	1,047	14,191	13,418	274
7月中旬	541	2,265	4,662	2,397	-1,724	15,058	16,291	-491
8月中旬	5,171	2,498	5,315	2,817	2,673	18,248	16,375	800
9月中旬	1,795	2,337	4,753	2,416	-542	13,553	13,742	-353
10月中旬	4,220	2,361	4,939	2,578	1,859	14,718	13,029	170
11月中旬	2,880	2,131	4,923	2,792	749	12,998	12,034	-215
12月中旬	1,745	1,836	4,699	2,863	-91	12,721	12,954	142
計	39,715	24,444	57,227	32,783	15,271	222,662	208,076	685



**5 市町村で人口増加**

白井町の増加率は6.84%

平成6年中の人口増減を市町村別にみると、56市町村で人口が増加（平成5年中58市町村）し、24市町村で減少した。

増加数では市原市が4,389人（県人口増加数に占める割合11.1%）で最も多く、以下佐倉市3,919人（同9.9%）、印西町3,258人（同8.2%）、八街市3,232人（8.1%）、白井町2,864人（同7.2%）と続いている。逆に減少数では市川市が2,697人で最も多く、以下、銚子市643人、習志野市400人、館山市284人、木更津市273人の順となっている。

また、人口増加率では白井町が6.84%で最も高く、以下、山武町6.30%、印西町6.12%、八街市5.30%、大網白里町4.75%と続いている。逆に減少率では鋸南町が1.63%で最も高く、以下、富山町1.44%、和田町1.15%、勝浦市0.97%、大多喜町0.79%の順となっている。

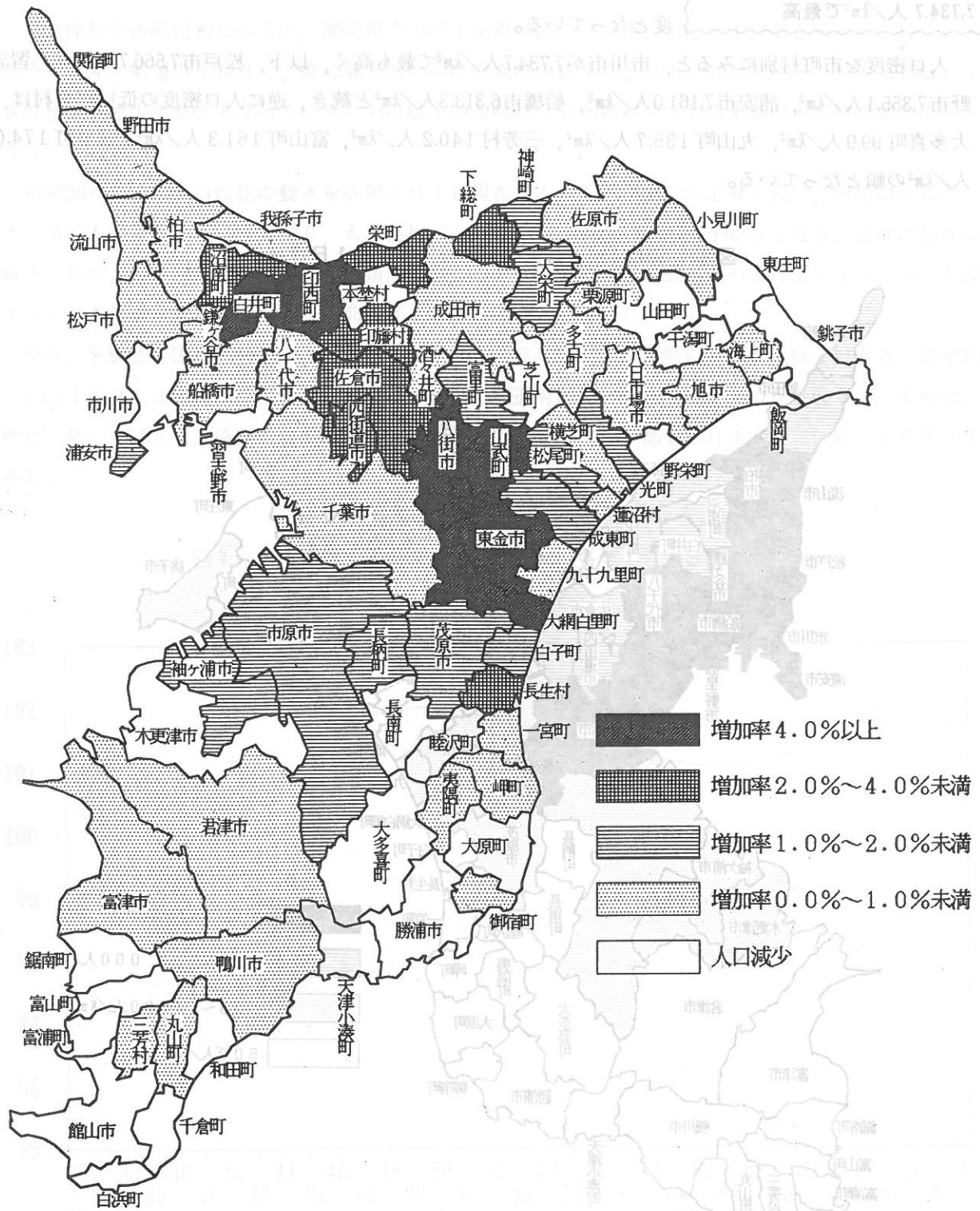
表2 人口増減数上位5市町村（平成2年～平成6年）

順位	平成2年		平成3年		平成4年		平成5年		平成6年	
	市町村名	増加数	市町村名	増加数	市町村名	増加数	市町村名	増加数	市町村名	増加数
1	市川市	8,222人	市川市	6,718人	千葉市	6,951人	千葉市	8,231人	市原市	4,389人
2	千葉市	4,634	千葉市	6,019	佐倉市	4,238	柏市	3,922	佐倉市	3,919
3	柏市	4,041	市原市	4,879	市原市	4,040	八街市	3,645	印西町	3,258
4	市原市	3,860	印西町	4,803	八街市	3,695	佐倉市	3,531	八街市	3,232
5	八街町	3,834	佐倉市	4,055	柏市	3,484	市原市	3,203	白井町	2,864
順位	平成2年		平成3年		平成4年		平成5年		平成6年	
	市町村名	減少数	市町村名	減少数	市町村名	減少数	市町村名	減少数	市町村名	減少数
1	銚子市	880人	銚子市	626人	銚子市	587人	銚子市	563人	市川市	2,697人
2	富津市	756	館山市	360	館山市	317	勝浦市	253	銚子市	643
3	小見川町	426	勝浦市	152	鋸南町	188	館山市	197	習志野市	400
4	館山市	421	千倉町	148	勝浦市	133	千倉町	160	館山市	284
5	千倉町	283	鋸南町	139	天津小湊町	126	大原町	137	木更津市	273

表3 人口増減率上位5市町村（平成2年～平成6年）

順位	平成2年		平成3年		平成4年		平成5年		平成6年	
	市町村名	増加率	市町村名	増加率	市町村名	増加率	市町村名	増加率	市町村名	増加率
1	山武町	9.96%	印西町	11.36%	山武町	7.26%	八街市	6.36%	白井町	6.84%
2	印西町	9.06	山武町	9.10	印西町	7.08	山武町	6.01	山武町	6.30
3	八街町	8.18	白井町	5.75	八街市	6.89	印西町	5.48	印西町	6.12
4	大網白里町	5.79	八街町	5.69	大網白里町	4.25	大網白里町	4.25	八街市	5.30
5	印旛村	5.45	大網白里町	5.47	長生村	4.03	東金市	4.18	大網白里町	4.75
順位	平成2年		平成3年		平成4年		平成5年		平成6年	
	市町村名	減少率	市町村名	減少率	市町村名	減少率	市町村名	減少率	市町村名	減少率
1	鋸南町	2.01%	富浦町	1.88%	鋸南町	1.63%	富浦町	1.85%	鋸南町	1.63%
2	千倉町	1.93	富山町	1.38	天津小湊町	1.48	白浜町	1.14	富山町	1.44
3	富浦町	1.91	鋸南町	1.19	富浦町	1.32	千倉町	1.13	和田町	1.15
4	天津小湊町	1.85	天津小湊町	1.16	本埜村	1.12	富山町	1.05	勝浦市	0.97
5	本埜村	1.60	千倉町	1.03	丸山町	1.11	勝浦市	1.01	大多喜町	0.79

図5 市町村別人口増加率（平成6年1月～12月）

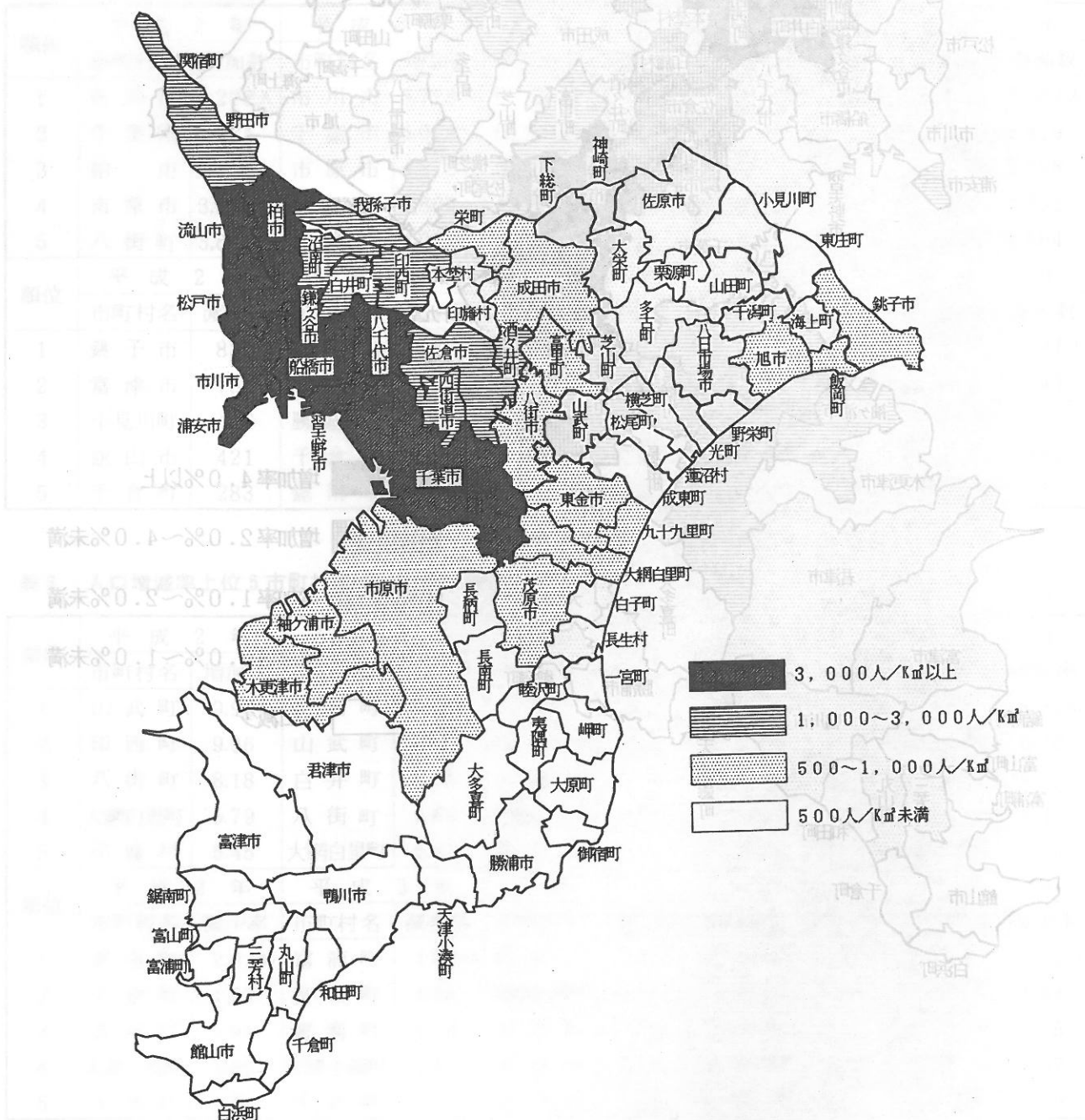


### 3. 人口密度

本県の人口密度は、平成7年1月1日現在1,124.6人/km<sup>2</sup>で、前年の人口密度(1,116.9人/km<sup>2</sup>)に比べ7.7人/km<sup>2</sup>高くなった。市郡別にみると、市部1,585.9人/km<sup>2</sup>、郡部395.0人/km<sup>2</sup>で、市部は郡部の約4倍の人口密度となっている。

人口密度を市町村別にみると、市川市が7,734.7人/km<sup>2</sup>で最も高く、以下、松戸市7,566.7人/km<sup>2</sup>、習志野市7,355.1人/km<sup>2</sup>、浦安市7,161.0人/km<sup>2</sup>、船橋市6,313.3人/km<sup>2</sup>と続き、逆に人口密度の低い市町村は、大多喜町99.9人/km<sup>2</sup>、丸山町135.7人/km<sup>2</sup>、三芳村140.2人/km<sup>2</sup>、富山町161.3人/km<sup>2</sup>、長南町174.0人/km<sup>2</sup>の順となっている。

図6 市町村別人口密度(平成7年1月1日現在)



#### 4. 人口性比

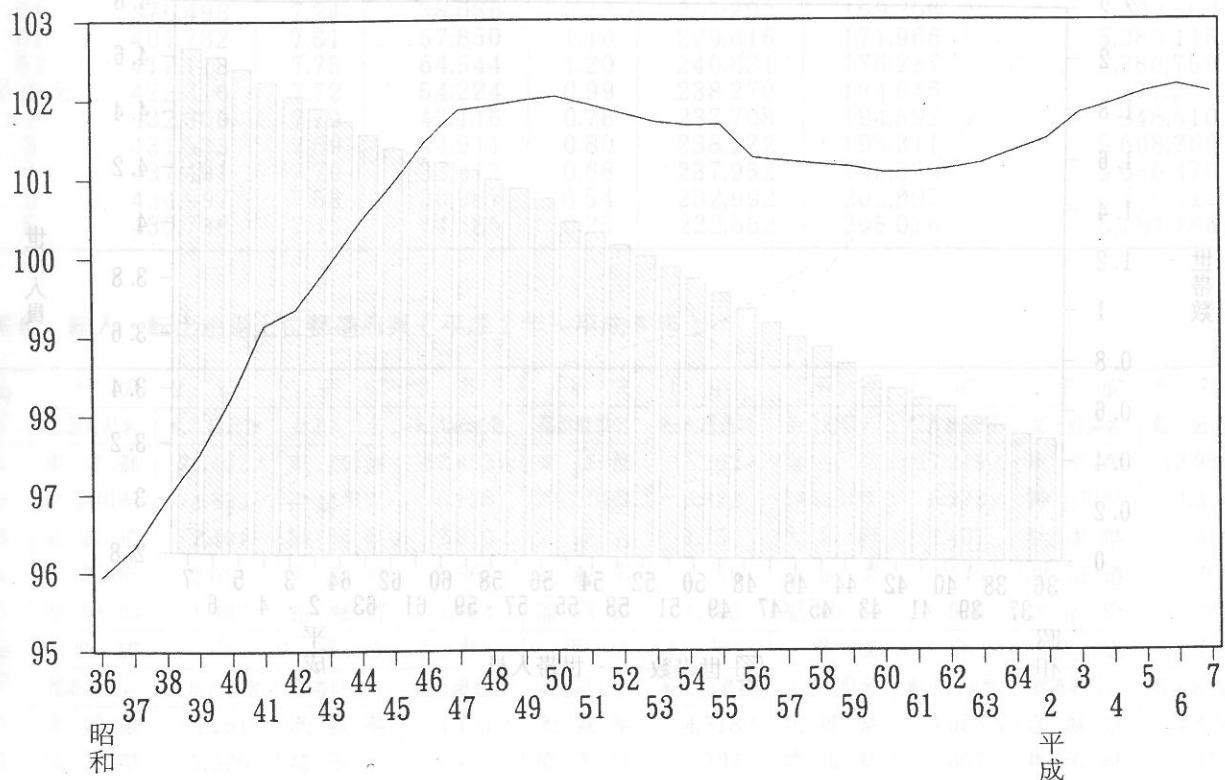
平成7年1月1日現在の本県の人口を男女別にみると、男子2,928,932人、女子2,869,188人で男子が女子に比べ59,744人多く、人口性比（女子100人に対する男子の数）は、102.1で前年（102.2）に比べ0.1ポイント減少した。

人口性比を市町村別にみると、浦安市の109.1が最も高く、以下、市原市107.2、市川市107.1、勝浦市106.4、船橋市106.0で、逆に最も低いのは白浜町の80.7で、以下、御宿町89.5、鴨川市89.5、千倉町89.9、館山市90.8となっている。100以上の市町村は32市町村で、100未満の市町村は48市町村となっている。

昭和36年以降の人口性比の動きを各年1月1日現在でみると、95.9から上昇し続け、昭和44年にはじめて男子人口が女子人口を上回り、人口性比が100を越え、昭和50年には102.0となり、以降は徐々に低下したが、昭和63年以降は再度上昇傾向にあり、平成6年には、過去最高の102.2となったが、平成7年1月1日現在で102.1となり、前年より0.1ポイント低下した。

なお、平成2年国勢調査によると、平成2年10月1日現在で、千葉県は人口性比が101.8で全国平均（96.5）より5.3ポイント高くなっている。また、都道府県別に人口性比が100を上回っているのは、神奈川県（105.5）、埼玉県（102.7）、千葉県（101.8）、東京都（101.4）、愛知県（100.6）である。

図7 人口性比（昭和36年～平成7年、各年1月1日現在）





## 5. 世帯数

県世帯数200万8千  
1世帯当たり人員は  
2.89人

平成7年1月1日現在の本県の世帯数は2,007,579世帯で、前年の世帯数は1,972,900世帯に比べて34,679世帯増加し、増加率では1.76%となり、人口増加率0.69%よりも高い率となっている。

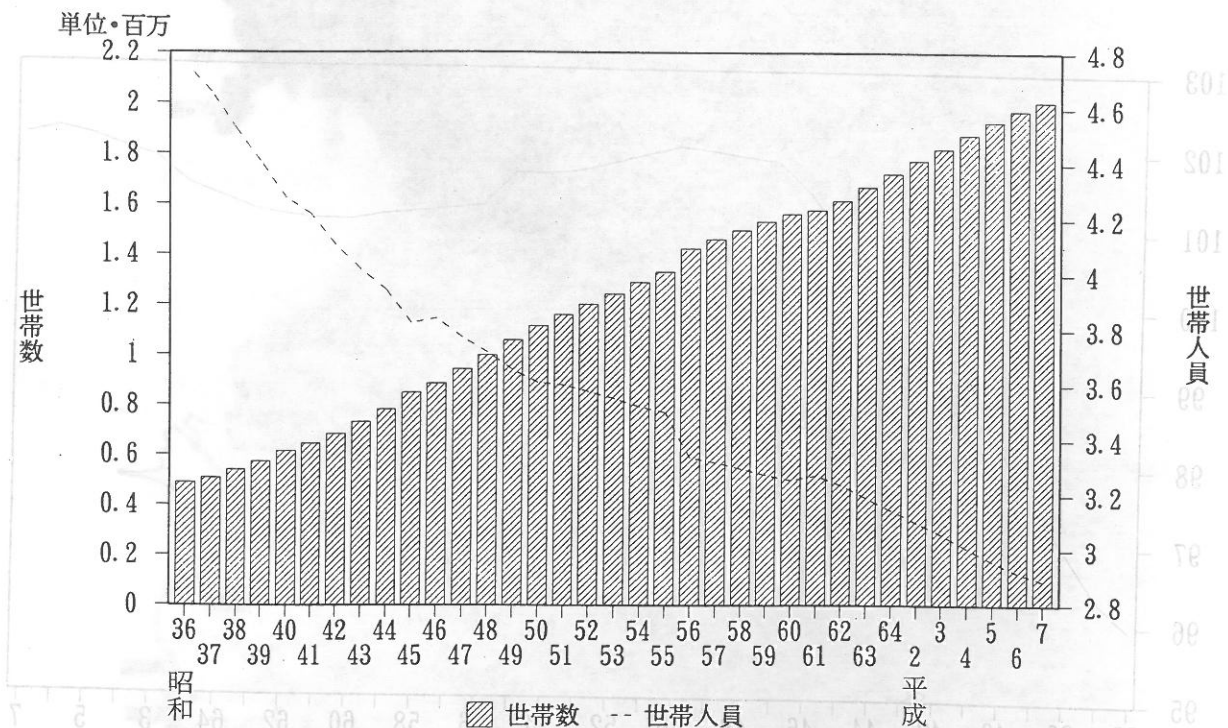
1世帯当たり人員は2.89人で、前年の2.92人に比べ0.03人減少した。また、1世帯当たり人員を市町村別にみると、干潟町の4.58人が最も多く、以下、本埜村4.32人、山田町4.24人、印旛村4.10人、東庄町4.00人と続き、逆に最も少ないのは市川市の2.45人で、以下、浦安市2.48人、習志野市2.65人、船橋市2.66人、松戸市2.68人の順となっている。県の1世帯当たり人員より少ないのは10市町で、多いのは70市町村となっている。

表4 月別世帯増加数(平成6年中)

	増加数	転入	転出	その他
1月中	1,715	6,620	5,567	662
2月中	-1,152	6,879	8,433	402
3月中	912	18,651	18,429	690
4月中	17,280	22,570	9,156	3,866
5月中	4,137	9,033	6,304	1,408
6月中	2,077	7,454	6,444	1,067
7月中	1,106	7,682	7,211	635
8月中	1,852	8,364	7,491	979
9月中	1,685	7,282	6,457	860
10月中	2,861	7,473	5,787	1,175
11月中	1,753	6,666	5,460	547
12月中	453	5,830	6,136	759
計	34,679	114,504	92,875	13,050

注 その他は、県内間の転入転出、死亡世帯及び職権による記載・消除等をいう。

図8 世帯数及び世帯人員数の推移(各年1月1日現在)





## 6. 県外との人口移動

人口移動総数43万1千人  
移動率7.45%

平成6年中の県外との移動者総数（転入者数と転出者数の和）は430,738人で前年の434,997人に比べ4,259人減少し、移動率（平成6年7月1日現在人口に対する移動者総数の割合）は7.45%と、前年の7.58%に比べて0.13ポイント低下した。

1万5千人の転入超過  
転入超過率0.25%

平成6年中の県外からの転入者数は222,662人（前年232,992人）、転出者208,076人（同202,005人）で、転入超過数14,586人（同30,987人）となり、転入超過数は16,401人減少した。

また、転入超過率は0.25%と、前年の0.54%に比べて0.29ポイント低下した。なお、県外との関係は21の都道府県から転入超過となり、24県へは転出超過となっている。

表5 年次別他都道府県間人口移動総数（昭和52年～平成6年）

年次	移動数	移動率	転入超過数	転入超過率	転入数	転出数	千葉県人口 (各年7月1日現在)
	人	%	人	%	人	人	人
昭和52	401,583	9.22	66,377	1.52	233,980	167,603	4,356,869
53	414,340	9.23	78,872	1.76	246,606	167,734	4,489,284
54	418,499	9.07	72,337	1.57	245,418	173,081	4,613,881
55	408,174	8.63	64,082	1.35	236,128	172,046	4,729,412
56	396,669	8.24	53,043	1.10	224,856	171,813	4,811,265
57	390,800	7.97	43,598	0.89	217,199	173,601	4,901,182
58	382,451	7.67	37,587	0.75	210,019	172,432	4,984,555
59	374,500	7.40	33,154	0.66	203,827	170,673	5,060,124
60	374,583	7.31	31,067	0.61	202,825	171,758	5,127,278
61	376,498	7.24	38,086	0.73	207,292	169,206	5,202,569
62	401,782	7.61	57,850	1.10	229,816	171,966	5,283,115
63	417,118	7.75	64,544	1.20	240,831	176,287	5,380,759
平成元	422,316	7.72	54,224	0.99	238,270	184,046	5,471,257
2	432,300	7.79	43,116	0.78	237,708	194,592	5,546,610
3	431,533	7.69	44,911	0.80	238,222	193,311	5,608,760
4	437,491	7.70	38,413	0.68	237,952	199,539	5,680,470
5	434,997	7.58	30,987	0.54	232,992	202,005	5,735,511
6	430,738	7.45	14,586	0.25	222,662	208,076	5,781,768

表6 転入・転出超過上位都道府県（平成2年～平成6年）

順位	平成2年		平成3年		平成4年		平成5年		平成6年	
	都道府県名	転入超過数	都道府県名	転入超過数	都道府県名	転入超過数	都道府県名	転入超過数	都道府県名	転入超過数
1	東京都	21,492人	東京都	17,433人	東京都	18,362人	東京都	17,215人	東京都	12,988人
2	神奈川県	4,392	神奈川県	5,128	神奈川県	5,322	神奈川県	5,273	神奈川県	4,354
3	北海道	2,401	福岡県	2,310	大阪府	1,751	大阪府	1,497	兵庫県	314
4	大阪府	2,091	大阪府	1,965	北海道	1,486	北海道	1,146	北海道	304
5	福岡県	1,407	北海道	1,854	福岡県	1,203	福岡県	616	大阪府	289
順位	平成2年		平成3年		平成4年		平成5年		平成6年	
	都道府県名	転出超過数	都道府県名	転出超過数	都道府県名	転出超過数	都道府県名	転出超過数	都道府県名	転出超過数
1	茨城県	4,191人	茨城県	4,797人	茨城県	4,318人	茨城県	4,058人	茨城県	4,424人
2	埼玉県	2,526	埼玉県	1,112	埼玉県	794	埼玉県	807	栃木県	311
3	栃木県	350	栃木県	194	栃木県	190	栃木県	355	長野県	296
4	—	—	山梨県	6	山梨県	29	宮城県	237	群馬県	182
5	—	—	—	—	—	—	長野県	155	和歌山県	175

## 7. 人口重心

### 人口重心は千葉市畑町付近 北東へ移動

本県の人口重心は、平成7年1月1日現在で、千葉市畑町付近（JR総武線新検見川駅から北東方向約1.6km地点）の東経140度5分15秒・北緯35度39分33秒の位置にあり、平成2年国勢調査（平成2年10月1日現在）時点より北東方向に約370m移動した。

大正9年の人口重心は、市原市瀬又付近で、その後県の北西部の人口増加に伴い、人口重心も北西方向に移動してきた。昭和45年以降は徐々にその進路が、東京方向から千葉県内陸方向に変化してきた。

注）人口重心とは、人口の一人一人が同じ重さを持っているとして、地域内の人口を1点で支えて平衡を保つことのできる点をいう。これは人口の地域分布状況を集約して示す指標の一つである。なお、千葉県の人口重心の計算にあたっては、県内各市町村の人口重心がそれぞれ現在の市町村役場にあると仮定した。

表7 千葉県の人口重心の推移（大正9年～平成7年）

年次	東 度 分 秒	北 緯 分 秒	移動距離 km	位 置
大正9年	140 12 38	35 32 25	—	市原市瀬又569番地100付近
大正14年	140 12 24	35 32 49	0.8	千葉市誉田町2丁目37番付近
昭和5年	140 12 23	35 33 12	0.7	千葉市誉田町2丁目29番付近
昭和10年	140 12 22	35 33 29	0.5	千葉市誉田町1丁目1002番付近
昭和15年	140 12 9	35 33 50	0.7	千葉市平山町1049番付近
昭和22年	140 11 30	35 34 7	1.1	千葉市平山町地先付近
昭和25年	140 11 24	35 34 18	0.4	千葉市平山町1413番地付近
昭和30年	140 10 57	35 34 44	1.0	千葉市平山町62番地付近
昭和35年	140 10 8	35 35 23	1.7	千葉市仁戸名町1番地付近
昭和40年	140 8 19	35 36 45	3.7	千葉市貝塚町192番地付近
昭和45年	140 6 43	35 37 34	2.9	千葉市轟町3丁目4番付近
昭和50年	140 5 52	35 38 20	1.9	千葉市小仲台6丁目28番20号付近
昭和55年	140 5 27	35 38 53	1.2	千葉市小中台町1396番付近
昭和60年	140 5 15	35 39 10	0.6	千葉市朝日ヶ丘2541番付近
平成2年	140 5 8	35 39 28	0.6	千葉市畑町662-180付近
平成7年	140 5 15	35 39 33	0.2	千葉市畑町436付近

資料：大正9年～平成2年は、国勢調査結果による。（各年10月1日現在）

平成7年は、千葉県毎月常住人口調査結果による。（1月1日現在）

市町村	人口	人口	人口	人口	人口	人口	人口
千葉市	1,434,111	1,434,111	1,434,111	1,434,111	1,434,111	1,434,111	1,434,111
市原市	311,300	311,300	311,300	311,300	311,300	311,300	311,300
市川市	181,171	181,171	181,171	181,171	181,171	181,171	181,171

図9 人口重心の移動  
 (大正9年  
 ~平成7年)



図10 人口重心の移動  
 (昭和45年~平成7年)

